

古の美を求めて ～金唐紙～

日本の伝統工芸品である“金唐紙”は、和紙に金属箔（金箔、銀箔、錫箔等）を押し、版木に当てて凹凸文様を打ち出し、彩色をほどこし、全て手作りで製作する高級壁紙です。金属箔の光沢と、華麗な色彩が建物の室内を豪華絢爛に彩る模様はとても美しく、ヨーロッパや日本の由緒ある重要な建造物に用いられています。今回その一部をご紹介しますので、華やかな金唐紙の美をぜひご覧下さい。

なお16日には金唐紙の国選定保存技術保持者、上田尚先生をお招きし、その歴史や手法等をご説明頂く機会も設けましたので、重ねてご案内申し上げます。



上田 尚（うえだ たかし）

金唐紙(きんからかみ) 研究所代表。

1934(昭和九)年、京都市生まれ。85年、東京目白に金唐紙研究所を設立。世界で唯一の金唐紙制作技術保持者として貴重な文化財の修復にたずさわる一方、各地での個展を通じて金唐紙の紹介に努める。

国選定保存技術者。



展示

期 間: 2011年10月3日(月)-21日(金)
月-金曜日 9:00-16:30

会 場: 津田塾大学 小平キャンパス
7号館 1F ラウンジ

入 場: 無料

特別対談

ゲスト: 上田 尚 (金唐紙研究所代表、
国選定保存技術保持者)

聞き手: 菅 靖子 (津田塾大学英文学科准教授)

日 時: 2011年10月16日(日) 11:00-12:30

会 場: 津田塾大学 小平キャンパス
7号館 1F 中島記念ホール

参加費: 無料 (申し込み要)

主催: EUSI 東京
後援: 社団法人日英協会

申し込み、問い合わせ先: EUSI 津田分室
E-mail eusi@tsuda.ac.jp Tel 042-342-5134